

留学・ビザエージェントに聞いた現場の声

仕事探しに役立つ情報

今までオーストラリアで多くの日本人の悩みを解決してきた頼れるカウンセラー、コンサルタントのお2人にまずは、仕事についてお話を伺いました。

取材協力：Blue Education、Fastrack Visas



Blue Education 詳細は P3 を参照

エデュケーション・カウンセラー

前田 由美子さん

【仕事探しの始め方】

まずは、履歴書を作り、mixi（ミクシィ）や Gumtree、Seek 等のインターネットサイトや、ご友人からの紹介等も含めて情報網を増やし、自分の足で履歴書を配ることをお勧めします。

【経験者か？有資格者か？】

オーストラリアでは、仕事を得る上で経験者の方が有利かと思えます。ただ、経験がなくても『有資格者＝資格を持っている＝スキルがある』ということですから、応募されている仕事内容に求められているスキルを理解している、もしくはそのスキルがあること、今まで学んだ内容がその仕事でどう活かせるかを履歴書、面接でアピールすることで状況は良くなります。また、インターンシップ制度を利用して、それから有給資格に繋げていく方、経験を積む方も多いです。

【求人の時期に関して】

職種にもよりますが、やはり冬より春・夏の時期の方が、求人が多く出ると思えます。クリスマス前の11月も求人が多くなりますね。

【お客様の事例を紹介】

ローカルの仕事にこだわり、履歴書を配ったりインターネットで検索したりして仕事を探した結果、ローカルの飲食店で働いていた方がいらっしゃいました。彼女が仕事を得た理由は、できないと思わないでとにかくチャレンジし、働きたいお店には何度も出向いてやる気を見せ、自信がなくても英語が得意だと言っていた点だと思います。語学学校では下位のクラスで学んでいたようですが、その後、仕事場で英語力をぐんぐん伸ばされたようです。一般的ですが履歴書には、例えば "Excellent Communication" 等と記載し、インターネットからでも例文などを引用して記載する英語表現に留意し、リクエストがなくてもカバーレターを付けることをお勧めします。



Fastrack Visas 詳細は P5、P6 を参照

ビザ・コンサルタント

岡崎 晴彦さん

【資格に関して】

ワーキングホリデービザでオーストラリアに来られた方が、時間をそこまでかけず仕事に役立つ資格を取得したい場合は、救急法（First Aid）や職業別の安全衛生管理に関するライセンス（Occupational Safety & Health）などがお勧めです。救急法は、チャイルドケアやエイジドケア（老人介護）などで求められることがある資格で、講習を受けて1日で取得できる場合もあります。同様に、安全衛生管理に関するライセンスも講習を受けて取得できる資格です。

【提出書類について】

欧米諸国においての特徴ですが、以前働いていた職場からのリファレンス（推薦者）の提出で、実際にその推薦者へ電話をかけ、志願者の照合が行なわれることが多いです。これは、雇用の前に志願者の人となり、前職での評判、バックグラウンドなどを確認するためです。就職は、新卒からという日本の一般的な就職のイメージとは異なり、オーストラリアでは経験を積んで次の会社に転職するのが一般的であるため、日本との考え方の違いを感じられる点であると言えます。

【雇用やビザに関して】

オーストラリアは、外国人にとっても仕事を得やすい場所と言われてきましたが、最近は景気の影響からか、状況が変わってきています。シドニーなどの大都市とパースを比較した際、シドニーの方が雇用や仕事を得る機会が多いと考えている方がいらっしゃると思いますが、ビザに関する仕事をしている関係上、近年、パースが地方スポンサー永住ビザ（RSMS）の対象地域になったため、雇用主指名ビザ（ENS）に比べ、審査基準の緩い RSMS で永住ビザを取得したいと考える外国人の方が、他都市からパースに移動してくることが多々あります。その点で、パースでは大都市にない可能性があると言えるでしょう。